



ユリシーズの瞳

テオ・アンゲロプロスとジョセフ・クーデルカ

ULYSSES' GAZE:

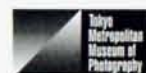
'97年12月3日[水]—'98年2月1日[日]

THEO ANGELOPOULOS AND

Ulysses' Gaze:
Theo Angelopoulos and
Josef Koudelka

映像工夫館作品展 Images and Technology Gallery Exhibition

JOSEF KOUDELKA



東京都写真美術館

〒153 東京都目黒区三田1-13-3 Tel. 03-3280-0031
1-13-3 Mita, Meguro-ku, Tokyo 153

主催＝東京都写真美術館 会場＝地下1階映像展示室 後援＝ギリシャ大使館 チェコ共和国大使館 協力＝マグナム・フォト東京支社 NHK情報ネットワーク Nikon フランス映画社
開館時間＝10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで 休館日＝毎週月曜日および年末年始('97年12月28日—'98年1月5日)



映像工夫館では、テーマ展「記録としての映像」にあわせた作品展の第5回として、「映画」と「写真」という、相関関係にある映像表現による「ユリシーズの瞳—テオ・アンゲロプロスとジョセフ・クーデルカ」展を開催します。

映画監督テオ・アンゲロプロスは、『旅芸人の記録』(1975)をはじめ『蜂の旅人』(1986)、『霧の中の風景』(1988)、『こうのとりのちぎれ』(1991)など、いずれも叙情的な映像表現による作品づくりで知られています。とりわけ、1996年に公開された『ユリシーズの瞳』(1995)は、揺れ動くバルカン半島の現代史を、100年の映画史に重ねて表現した壮大な作品として、国際的にも高い評価を得ました。

一方、写真家ジョセフ・クーデルカは、1960年代よりジブシーたちの取材を始め、『プラハの春』で祖国を追われてからは、『エキザイル—亡国者』『ジタン—旅の終わり』など、自らが「漂流者」となって、激動のヨーロッパを〈彷徨う視線〉で記録しつづけています。世界的な写真家集団「マグナム」のメンバーである彼は、近年の代表作として、アンゲロプロス監督の撮影現場とともに、バルカン半島の現在を取材し、1995年にはギリシャ、97年にはフランスで写真展を開催しています。

この展覧会は、日本未公開のパノラマサイズを含む全51点のジョセフ・クーデルカの写真展示と、テオ・アンゲロプロス監督の映画『ユリシーズの瞳』の上映を通して、映像表現の命題のひとつでもある「記録性」のあり方を探るとともに、異なった表現手段をもつふたりの映像作家への関心と理解を、より深めようとする試みです。

観覧料＝一般・大学生500円(400円) 小・中・高校生250円(200円)
企画・常設・映像工夫館展共通観覧料＝一般・大学生1,000円(800円) 小・中・高校生500円(400円)
いずれも()内は、20名以上の団体料金。小学生未満、65歳以上の方、および障害のある方とその介護者1名は無料になります(証明できるものをご持参ください)

「ジョセフ・クーデルカ来日記念講演会」(予定)
日時: 12月6日(土) 16:30-18:30
講師: ジョセフ・クーデルカ *同時通訳付
会場: 東京都写真美術館1Fホール(先着200名、無料)

「ユリシーズの瞳」連続上映会
テオ・アンゲロプロス監督
1995年(仏、伊、ギリシャ合作、カラー、177分)
出演: ハーヴェイ・カイテル、マヤ・モルゲンステルン他
*英語版日本語字幕付
会場: 東京都写真美術館1Fホール(定員200名)
日時: 1997年12月6日(土) 13:00-16:00
12月20日(土) 14:00-17:00
1998年1月17日(土) 14:00-17:00
1月31日(土) 14:00-17:00

展覧会予告
「ニナ・フィッシャー & マロアン・エル・ザニ個展—オーラ・リサーチ—」
1998年2月5日(木)～3月29日(日)

展覧会のご案内
ハローダイヤル 03-3272-8600
<http://www.tokyo-photo-museum.or.jp>

写真はすべて © Josef Koudelka / Magnum Photos

